

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4071601738, 株式会社さくら苑).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも高齢化率は低いものの高齢世帯、高齢者単身世帯の多い地域にあり、平成15年12月の開設より、地域の中で生活されている認知症の方々の住む『家』として事業を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バイパス沿いの賑やかな商業地から少し入った住宅街に当事業所がある。目の前は近隣の方や通学の子供達が往来し、自然に日頃から挨拶などの交流ができ、家庭にいる様な雰囲気がある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Details (numbered list).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時と会議時に事業所の介護理念を唱和し共有している。職員間のミーティングの際もケアの方針を話し合う場で「温かい家庭的な雰囲気」を軸として、何ができるかを皆で検討している。	玄関など見やすい所に理念を掲示し、職員は様々な会議等の場面で理念の共有をしている。毎年の全体職員会議で、その年の行動規範を話し合い理念に沿って目標を立てている。理念を基に職員は利用者に敬意を払い、家族の様に利用者との心の繋がりを目線を含めたケアを大切にし地域交流に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への挨拶や、地域の祭り、掃除、年末夜警等に参加して付き合いが続くように取り組んでいる。	夏祭り等の地域行事に職員が同行し利用者に参加している。日頃の散歩時やテラスで、利用者職員は往来する近隣の方々と挨拶や会話を交わしている。事業所は地域の学生の実習や職場体験の受け入れもやっている。年度末の地域の夜警に参加予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、徘徊模擬訓練や認知症理解の啓発など、地域対応の連携に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして、地域の意見を聞きながら改善等取り組んでいる。	現在までに会議を6回ほど開催している。地域の民生委員や利用者とその家族、市役所担当、包括支援センター、他の事業所等の方々の参加がある。困り事やヒヤリハットの意見交換や看取りの体制等を説明し情報共有したり、また意見等を参考に日頃の支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	弊社代表が久留米市介護福祉サービス協議会の代表をしており、市の関係者と関係が深い。また困りごとがあれば市の担当者に教えていただいている。	職員は市役所や包括支援センター担当に、制度の窓口についての確認や加算、ヒヤリハットの考え方の相談、入居情報等のやり取りなどで連携に努めている。事業所代表は公的機関や学校等、地域の様々な機関と関わりを密にして介護状況の向上の為に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年は外部の研修施設を借り虐待と身体拘束について全職員へ研修を行っている。また、毎月会議にてスタッフの状況と利用者様の状況の把握を行っている。	身体拘束委員会を中心に身体拘束や虐待等について研修を行い、それを利用者への日々の言葉遣いや支援の中で気をつけている。職員は身体拘束の内容や3原則(身体拘束のやむを得ない時)等について理解できている。日中は施錠していない。必要な状況の利用者にセンサーで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染症の影響により外部研修には参加出来ないが社内研修において虐待防止について学び取り組んでいる。また、委員会においても各フロアのスタッフの日頃の様子を伝えあい虐待の芽を早期に発見し防止できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の玄関にパンフレットを置いている。成年後見制度の利用が必要な方においては入居時に説明し支援を行っている。また、年に一回は社内研修において、権利擁護の研修を行っている。	玄関に成年後見制度等の資料の設置があり、現在1人が利用しているため、職員は制度について理解している。日常生活自立支援事業の利用者はいないが、権利擁護について管理者は説明できる体制を整えている。12月に権利擁護の研修を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学、相談をし納得して頂いてから入居してもらっている。入居後も面会時などに話をする場を作り交流している。相談しやすい環境作りに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で体調等変化があった際には電話にて報告し面会時には日頃の様子を伝えている。ケアプランの更新、変更時は、ご家族の意見を聞きプランに反映するようにしている。	職員は日頃のケアの中で、利用者の声を聴き気持ちに沿った支援をしている。家族も面会時などに意見を伝えやすい雰囲気がある。また家族会も年2回開かれ、家族から面会等についての要望を聞き、事業所は状況にあった対応に努めている。相談などの窓口についても目の付くところに掲示や書面に載せている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見を聞くようにしている。管理者は個別での意見も上の会議に諮り会社へ意見の反映している。また、年1回全体会議を行い職員から会社に直接意見を言えるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、職能基準を明確化したうえで管理者が評価し代表者に申し出るシステムで自己評価を含め各職員がやりがいや向上心を持てるように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては性別・国籍・年齢を問わず、人柄と高齢者支援に対する意欲を重視している。	現在、男女問わず20歳代から70歳代の方が勤務している。事業所隣に職員寮と休憩室を設け、外国人一人を採用している。職員は勤務として研修を受けたり、費用補助もあり資格取得のための講習を受講しやすい職場環境がある。職員は会話や明朗な性格をケアに生かし働いている。育児休暇や有給休暇等についても子育て世代等が休みを取りやすい体制がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナ感染症の為、社外研修の参加は難しかったが社内研修において年に一回人権教育に取り組んでいる。	社内研修で人権についての講演や動画の視聴等にて、回数を増やして職員が全員参加できる様に研修を行っている。日常の支援の中で、事業所として利用者に対する人権を守る教育や啓発をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、法人内研修を開催し、多くの職員が参加し、研修報告書を提出し、ミーティング内において共有する体制を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会、その他の研修などを通じ、他事業所との交流に努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に生活歴を尋ねる。利用者様に趣味、好きな事を会話の中で聞き取りそれを把握して自宅にいるような気分で暮らしてもらうよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と密に連絡を取り、信頼関係の構築に努めている。また、SNS等も活用し連絡のしやすい環境作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の出来ること、出来ない事を毎日の生活の中で見極めて支援に活かしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活用して出来る事を手伝ってもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行っている。また変わったことがあればSNSなども活用し報告を行い、ご家族の要望や利用者様とご家族が時間を持ってもらえるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会も制限がある中ではあるが、ホームページにご家族専用の閲覧コーナーに写真や近況を載せたり、行事の際にお便りを送ったりと馴染の関係が続くように支援している。	面会は感染対策を行いながら制限を解除して対応している。今年度はホテルでの敬老会を再開して、ゆっくりと食事や催し物で家族等との交流を楽しむことができている。法事やお盆の外出、馴染みの美容室へ家族と出かける等、本人にとって大切な場所や人とのつながりの支援に職員は努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共通の話題等、職員を交えながら良好な関係を保てるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退去後もご家族に年賀状を出したり、催し物に招待したりしている。また関係性が切れないように相談をできる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族の希望を訪ね、過去の生活歴や利用者様、ご家族の意向をケアプラン作成の根源としている。	利用契約時に今までの生活について聞き取り、職員間で共有している。入居後は本人に寄り添い普段の会話の中から、意向表出が困難な場合は本人の仕草や表情から、また家族より意向を聞きとり、職員間で共有し本人が暮らしやすいように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に頂く際には、生活歴をよく把握し、それを基にコミュニケーションを図りサービスの利用の経過の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の過ごし方心身状態などを観察し、スタッフ間で共有しながら日々の業務に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の声、利用者様の声を聞きスタッフミーティングで意見を交換し、その人に合った介護計画の作成に努めている。	利用者担当の職員が、利用者・家族の意向を確認しカンファレンスで共有している。主治医の意見は往診時に確認し、担当者はカンファレンスでの意見をまとめ計画作成者が確認し作成している。変化があった場合はその都度見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート、個別ノートを活用し職員間で情報共有しながら実践し、ミーティングにて次回の計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ニーズを適切に捉え、利用者様の心身の状況をご家族や主治医と情報交換を行いながら、適切な病院受診、リハビリ等を行い、場合によっては、訪問看護などのサービス利用が受けられるように支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にどのような関係機関があるのか、地域包括支援センター等と一緒に取り組みをすることで把握と連携に努めている。また近隣に散歩等に出かけ挨拶等を行う事により、一人一人が地域との繋がりを持てるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医を確認してご家族の意向に応じた、サービスの利用、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が望まれる、かかりつけ医の継続や選択をしている。現在4ヶ所のかかりつけ医より往診がある。他科受診が必要な場合は基本家族の支援をお願いしているが難しい場合は送迎の支援をし、その時に医療機関に情報を伝えている。家族が受診支援をする場合は介護記録や経緯資料などを渡して、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の様子観察やバイタル測定等を行い看護職員と共有することで、状態観察に努め、変化があれば医師職等に適切に繋ぐよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	苑での状態を把握、記録し、入院時に情報提供シートを作成し、渡すことで情報連携に努めている。また、早期退院できるように、関係機関と密に連絡をとり退院体制を築くように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、医療者と連携し、変化が見られた段階からご家族と医療者をつなげ、皆で検討することで、十分に理解を促しながら体制を築いている。ただ、地域との関係者と看取りについての連携は取れていない。	開設時から現在までに49名の看取りを行っている。重度化や終末期については変化が感じられた段階から、家族・医師・職員が連携を取り経過に応じた支援を行い安心できる体制がある。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や急な事故対応に備えてBCP訓練を活用し皆で体制の検討を行っている。また、応急手当等の対応は常日頃より管理者から指導を行っている。他にも各フロアにマニュアルを置いており、実践時に活用できるように努めている。	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練時には、地域の方にも声掛けをしており、地域の方々との協力体制作りに取り組んでいる。また、訓練時は全スタッフに参加を促し全職員が避難する方法を身に付けられるよう体制を作っている。	今年度は11月に火災と地震の避難誘導訓練を行い、実際に職員はコミュニティセンターまで利用者を誘導し避難している。1月には消防署立ち合いで火災の避難訓練を計画している。有事用に発電機を用意しているが毎回訓練時には、発電機を全職員が使える様に訓練し調理まで行っている。備蓄もあり賞味期限切れで入れ替え中である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重しスタッフの声掛けにより利用者が不快な気持ちにならないように取り組んでいる。	職員は明るく接しながらも利用者の人格や誇りを損ねないような声掛けの工夫をしている。書類は鍵のかかるロッカーに保管されている。記録の際は見守りをしながらホールの机を利用して行うが他者に見えないように配慮している。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る利用者様は意見をしっかり聞いて、自己決定が難しい利用者様は表情等をしっかり読み取り、ご家族の意見も聞いて意向に沿えるように努めている。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意見やペースにより自由に過ごせるように心掛けている、体操などご本人の意思を聞くようにしている。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変化に伴い、衣替えの支援を行ったり、利用者様の希望を優先した服装を心掛けるよう取り組んでいる。外出時には外出用に洋服を準備したりしながら楽しんでいただけよう心がけている。	
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べる力に合った、食材の大きさや柔らかさに配慮している。また、調理スタッフが季節感のある彩り豊かな食事を提供し、食事を楽しんでいただいている。また、利用者様には配膳や下膳等できることの手伝いをお願いしている。	週3日の昼、夕食は外注している。その他の日は専属の職員が献立を考えて作っている。利用者の希望を取り入れたり、利用者や職員が庭に植えた野菜を収穫し食材に取り入れたり工夫している。週1回はパンを提供している。利用者はそれぞれの力を活かし下ごしらえやトレー拭きを行っている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた、食事の量や食事形態などを把握しながら、食器や介助の方法等も工夫して提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた声掛け誘導を行い、うがいなど出来ない方には、口腔ガーゼ、スポンジブラシなどを使用している。一日三回口腔ケアを徹底し清潔を保つよう支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自然なリズムで、トイレ誘導を行っている、個々のパターンを把握して、トイレでの自然な排尿が出来るように支援している。	排泄チェック表を付けることで排泄パターンを掴みトイレ誘導をすることで、失敗が減ったり、尿取パットのサイズ変更になったりした事例がある。トイレ誘導がきっかけで、排泄の時に立てるようになったり、車椅子からシルバーカー使用になった事例もあり、一般的な自立支援にもつながる支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳製品の提供と水分摂取に努め個々に応じた便秘予防と対応を行っている。必要に応じて医師の指示のもと下剤を服用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に一度は入浴できるよう支援している。入浴拒否がある方にはできるだけ尊厳を尊重し対応している。個人のタイミング等に合わせる支援はできていない。便失禁時は入浴し清潔が保てるようにしている。ただ、一人一人のタイミングに合わせての入浴は出来ていない。	週2回は必ず入浴できるよう努めている。必要な場合は2名介助で浴槽に入ってもらえるようにしている。汚染時はその都度シャワー浴で対応して清潔が維持できるように支援している。好みのシャンプーなどは希望に添えるようにしている。入浴は職員との会話で楽しめる場になっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温や明るさ、寝具や家具など本人に希望に応じて安心して過ごしていただけるよう意見を尋ね反映させている。また就寝時間も本人の希望に合わせて支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に個別の服薬ファイルを保管し、服薬状況や症状についてスタッフ間で情報共有に症状の変化や把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って過ごして頂けるように食事のかたづけや洗濯物たたみなど手伝って頂く様にしている。体操や散歩、塗り絵やトランプ、歌などを個々に合わせたレクリエーションで楽しみを支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行くなどの外出支援を行っている。コロナ感染症の状況に応じて地域活動への参加や近隣の方との交流も支援している。	天気の良い日には近隣を散歩している。コロナ禍で外出が厳しくなっていたが、5類移行は感染症の状況を見ながら徐々に外出の機会を増やしている。直近の事例として、日にちと人数を分けて蕎麦を食べに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは理解されているが、金銭管理は難しい面も持たれている為、利用者様に変わり苑の方でお金の管理をしている。買い物や外出の際はお預かりしているお金を利用して買い物できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により職員と一緒に手紙を書いたり電話をかけるなどの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに花を飾ったり、季節感が感じられる装飾も行っている、また湿度、温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。	共有空間のソファで、利用者は座ったり横になったりと思いつきに過ごせている。1階ベランダのベンチから畑の野菜を眺めながらのんびりとすごせる場も設けている。壁面には利用者や職員と一緒に制作した季節の作品を飾り楽しい雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は利用者様が認識しやすいようにできるだけ固定し、一人一人が安心できるような配慮をしている。また、利用者様同士で交流ができるようにソファを配置し思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やテレビなどを持ってきていただき、自宅に近い居室作りに努めている。	使い慣れた寝具やテレビ、椅子、テーブル、筆筒などの家具やぬいぐるみ、仏壇などそれぞれの思いの物を持ち込み居心地よく過ごせる空間となっている。畳を好まれる利用者にはベッドの下に畳みを2畳敷きゆっくりにできる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行される方のために手すりなどを設置しており、外気浴が出来るようベンチも設置している。		